



埼玉県のマスコット コハトン

ライ ブ ・ レ タ ー

Lib. Letter

2015 Autumn [9～11月]季刊

平成27年8月18日 通巻 第41号

編集・発行 埼玉県立熊谷図書館

<https://www.lib.pref.saitama.jp/> Tel 048-523-6291

言葉の力

開催期間 : 平成27年8月18日(火)～11月3日(火)

場 所 : 埼玉県立熊谷図書館2階ロビー

人間は言葉によって、考えたり、感じたり、意志を伝えたりすることができます。

詩人は言葉を紡ぎ、ジャーナリストは言葉で戦い、カウンセラーは言葉で人を癒します。人と人は言葉を通じてつながり、哲学者や詩人たちの言葉は迷ったときの道しるべとなります。

今回の展示では、そんな「言葉」が持っている力・影響力に焦点をあてて資料を展示・紹介します。

0 言葉のちから

古代の日本人は言葉に霊が宿っており、その霊のもつ力がはたらいて、ことばにあらわしたことを実現させると考えていました。その言葉に宿る霊のちからを「言霊(ことだま)」といいます。

「言霊」という語は日本で最初の歌集「万葉集」の3つの歌にあらわれています。

神代よりいひ伝(つ)てけらく、空見つ大和の国は、すめろぎのいつくしき国、言霊(ことだま)の幸(さき)はふ国と語りつぎ、いひつがひつつ、今の世の人もことごと、目に前に見たり、知りたり。
山上憶良(巻5)

(訳) 大昔から、いい伝えて来たことには、この日本の国は、御先祖の神様たちのおこしらえになった、立派な国であり、それから、語には不思議な作用があって、霊妙な結果を現わす国だ、と語り伝え、いい伝えしてまいりました。それで、その実例は、現代の人も、皆実際に見てもいるし、知ってもいます。

言霊の八十(やそ)の衢(ちまた)に夕占(け)とふ。占、まさに告(の)れ。妹に逢はむよし
柿本人麻呂(巻11)

(訳) 四通八達の辻に出て、行人の詞に潜んだ、不思議な力をば、夕占によって、自分は問うおうと思う。どうぞ、占いが実際通り、どうか託宣を下して下さい。いとしい人に会えるということ。

磯城島(しきしま)の大倭(やまと)ノ国は、言霊の助くる国ぞ。まさきくありこそ

柿本人麻呂(巻13)

(訳) 大倭の国は、語にひそんでいる精霊が、不思議な作用を現わして、人に力添えをしてくれる国である。私が今こうして祈っているのだから、きき目のない訣はない。どうぞ無事でいらっしやして下さい。

(参考:『世界大百科事典 10』(平凡社 2005)、『日本古典文庫 2 万葉集 上・下』折口信夫訳 河出書房新社 1976)

ところで「言葉」とは・・

『日本国語大辞典』には、「社会ごとにくまっています、人々が感情、意志、考えなどを伝えあうために用いる音声。また、それを文字に表わしたもの」とあり、「話したり語ったり、また、書いたりする表現行為。」「ものの言いかた。口のききかた。話しぶり。」「表現された内容」などの意味があげられています。(参考：『日本国語大辞典 第8巻』(日本大辞典刊行会編 小学館 1974))

【このコーナーの展示資料】

「言霊」

『日本人の言霊思想 (講談社学術文庫 48)』(豊田国夫〔著〕 講談社 1980) (B121/-)

『言霊信仰』(豊田国夫著 八幡書店 1985) (121/コ)

『記号と言霊』(鎌田東二著 青弓社 1990) (久喜 810.2/キ)

『言霊と他界』(川村湊著 講談社 1990) (121/カ)

『言霊』(島田正路著 島田正路 1986) (147/Sh36)

「『万葉集』の言霊」

『日本古典文庫 2 万葉集 上』(折口信夫訳 河出書房新社 1976) (BM918)

『日本古典文庫 3 万葉集 下』(折口信夫訳 河出書房新社 1976) (BM918)

『万葉集を学ぶ 第6集 万葉集巻第11～14 (有斐閣選書)』(伊藤博、稲荷耕二編 有斐閣 1978) (BM911)

1 言葉をつむぐ

☞ 詩人たち作家たち ☞

綿や繭を糸縫(より)車にかけ、その繊維をひき出し、よりをかけて糸にするように、詩人や作家たちは、言葉を選び(選り)、詩や物語をつむいできました。つむがれた言葉は、国境を越え時を超え、人々の心に届き、感動や喜び、勇気を与えます。

【このコーナーの展示資料】

『明治・大正・昭和の詩人たち』(大岡信著 新潮社 1977) (久喜 911.5/メ)

『わが青春の詩人たち』(三木卓著 岩波書店 2002) (久喜 911.52/キ)

『詩人の変奏』(宇佐美斉著 小沢書店 1992) (久喜 911.52/ウ)

『広島島の詩人たち (新日本新書)』(増岡敏和著 新日本出版社 1971) (久喜 911.5/4 マ)

『長崎・詩と詩人たち』(山田かん著 汐文社 1984) (久喜 911.5/ケ)

『イギリス詩人伝』(サミュエル・ジョンソン著 小林章夫〔ほか〕訳 筑摩書房 2009) (久喜 931.5/イ)

『バックスの杖 フランス詩人論』(渋谷孝輔著 小沢書店 1980) (久喜 951/バ)

『自然詩の系譜 20世紀ドイツ詩の水脈』(神品芳夫編著 みすず書房 2004) (久喜 941.7/コ)

『アメリカン・モダニズム』(富山英俊編 せりか書房 2002) (久喜 931.7/ト)

『中国詩人伝』(陳舜臣文 李庚絵 講談社 1988) (久喜 921/チ)

『「近代」と闘った人びと』(千葉貢著 高文堂出版社 1994) (久喜 910.26/キ)

『生きることの発見 現代作家の模索する人間像』(高見沢潤子著 コンコーディア社 1972) (久喜 910.26/カ)

『あんな作家こんな作家どんな作家』(阿川佐和子著 講談社 1992) (BM910)

『言葉の力で ドイツの反ファシズム作家たち』(長橋芙美子著 新日本出版社 1982) (久喜 940.2/コ)

広島・長崎の詩人たち

今年2015年は、広島・長崎に原子爆弾が投下されて70年目にあたります。たった2発の原子爆弾が、何十万人もの人の命を一瞬でうばいました。「原爆文学」とよばれるように、この原子爆弾を題材にした詩や小説、短歌・俳句などが多数つくられてきました。

「序」 峠 三吉（『原爆詩集』より）
ちちをかえせ ははをかえせ
としよりをかえせ
こどもをかえせ
わたしをかえせ わたしにつながる
にんげんをかえせ
にんげんの にんげんのよのあるかぎり
くずれぬへいわを
へいわをかえせ

峠 三吉

1917～53（大正6～昭和28）

戦後の詩人。肺患のため病床生活を送り、1943（昭和18）キリスト教の洗礼を受ける。1945 広島で原爆にあい、1949「われら詩の会」を主宰、また1952「原爆被害の会」を組織、原爆症に苦しみながら原水爆禁止運動、文化活動に尽力。1951「原爆詩集」を出し大きな反響をよんだ。凄惨な情景を静かに正確に語る詩風は内に秘めた抗議の強さを感じさせる迫力がある。（『コンサイス日本人名事典』（三省堂編修所編 三省堂 2009）より）

🌀 創作の秘密 🌀

詩人や作家たちは、言葉を選び詩や物語を作ります。言葉は、人に勇気を与えることもあれば、使い方により心を傷つけることもあります。詩人や作家たちの言葉選び、創作の秘密に迫ります。

『作家の診断』（片口安史著 新曜社 1982）

昭和36年に刊行された月刊誌『国文学・解釈と鑑賞』で「現代作家の心理診断と新しい作家論」という特集を組んだときに、筆者が作家に行ったロールシャッハ・テストの結果の分析に基づいてまとめた心理診断レポート。「当代一流の小説家や詩人たち」を対象に行われたもので、佐藤春夫や三島由紀夫、武者小路実篤、井伏鱒二、江戸川乱歩などの名があがっています。被検者の作家と筆者とのやりとりや、まとめの数表、診断結果などが掲載されていて、たとえば井伏鱒二の診断のまとめは次のように記されています。

非常に几帳面で、物事をいい加減にできない。かたくなまでに、自己に対して厳しいところがある。（中略）全般的にみて、どうしてもニューロティックな傾向があることを否定できないが、氏はおそらく現実の世界からの情緒的衝撃を、独得の仕方ですわらげるクッションを、ふところにしのばせているのかもしれない。

ロールシャッハテストとは・・・

スイスの精神科医ロールシャッハが1921年に発表した投影法の人格テストの一つ。（中略）10枚（5枚の明暗図版、2枚の黒赤2色図版、3枚の多彩図版）の左右相称のインク・プロット（しみ）を用いた知覚分析テストで、図版のあいまいさ不完全さを被検者がどのように補って完成させる（知覚する）かにより人格の特性にせまろうとするもの。

（『世界大百科事典 30』（平凡社 2005）より）

【このコーナーの展示資料】

『近代作家自筆原稿集』（青木正美収集・解説 保昌正夫監修 東京堂出版 2001）（久喜 910.26/ア）

『近代を駆け抜けた作家たち 文豪たちの文字は語る』（群馬県立土屋文明記念文学館編 群馬県立土屋文明記念文学館 2015）（久喜 D910.26/キ）

『近代日本人の発想の諸形式（岩波文庫）』（伊藤整著 岩波書店 1981）（久喜 B901/イ）

『作家と狂気 創作の秘密をさぐる』（至文堂編 至文堂 1973）（久喜 910.26/サ）

『作家の手帖』（松本清張著 文藝春秋 1981）（久喜 914.6/マ）

『作家の診断 ロールシャッハ・テストから創作心理の秘密をさぐる』（片口安史著 新曜社 1982）（久喜 910.26/カ）

『言葉の深層へ（ラ・メールブックス 3）』（馬場礼子著 思潮社 1988）（久喜 911.5/コ）

『作家の育てたことば（叢書・ことばの世界）』（橋浦兵一著 南雲堂 1985）（久喜 910.2/ク）

『詩人・評論家・作家のための言語論』（吉本隆明著 メタログ 1999）（久喜 804/シ）

『作家と差別語』（塩見鮮一郎著 明石書店 1993）（久喜 904/チ）

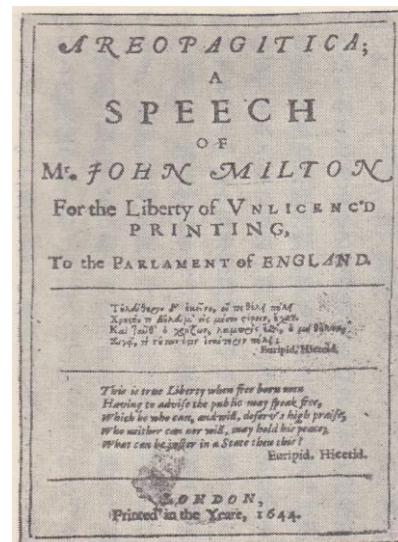
『言葉が消えた！ 失語症と闘う新人賞作家の手記』（早野貢司著 風媒社 1991）（久喜 493.7/コ）

2 言葉でたたかう

∞ ジャーナリズム ∞

「ペンは剣よりも強し」ということわざがあるように、学問や言論の力は武力より強大であるといわれます。言論をつかさどる新聞、雑誌、ラジオ、テレビなど時事的な関心を主体とするマスコミュニケーションの媒体機関、また、その世界でつくりだされる文化のことを「ジャーナリズム」といいます。『世界大百科事典』では、そのはじまりについて次のように述べられています。

活版印刷技術がヨーロッパ各地に普及した17世紀半ばごろからイギリスでは政治と信仰をめぐる論争がさかんとなった。それぞれの立場の者は、その主張を簡単な印刷物にして公開の場で論敵を倒し、支持者をひろげようとしたのである。ジョン・ミルトンの「アレオパジティカ」（言論の自由論）もこうした小冊子の一つであり、彼ら「パンフレット書き pamphleteers」のなかから18世紀にかけての有力な雑誌・新聞の主筆たちがそだっていった。（『世界大百科事典 12』（平凡社 2007）より）
（参考：『日本国語大辞典 第10巻』（日本大辞典刊行会編 小学館 1974））



ジョン・ミルトンの「アレオパジティカ」表紙

（『活字文化の誕生』より）

【このコーナーの展示資料】

- 『活字文化の誕生』（香内三郎著 晶文社 1982）（久喜749.2/コ）
- 『メディアとコミュニケーションの文化史』（伊藤明己著 世界思想社 2014）（旧浦和361.453/メ）
- 『ジャーナリズムとは何か』（鈴木均著 サイマル出版会 1976）（070.ジ）
- 『ジャーナリズムとは何か』（山本博著 悠飛社 2003）（070.4/シヤ）
- 『ジャーナリストの仕事』（原剛コーディネーター 早稲田大学出版部 2007）（070.4/シヤ）
- 『ジャーナリズムとその敵』（鈴木均著 芸立出版 1976）（070.ジ）
- 『マスコミはたたかっているか』（茶本繁正著 大月書店 1991）（070.1/チ）
- 『衰退するジャーナリズム（叢書・現代社会のフロンティア 15）』（福永勝也著 ミネルヴァ書房 2010）（070/スイ）
- 『法とジャーナリズム』（山田健太著 学陽書房 2014）（070.13/ホ）
- 『明治のジャーナリズム精神』（秋山勇造著 五月書房 2002）（070.21/メイ）
- 『作家が死ぬと時代が変わる 戦後日本と雑誌ジャーナリズム』（粕谷一希著 日本経済新聞社 2006）（久喜910.264/カス）
- 『言論弾圧史（ジャーナリズム叢書 2）』（日本ジャーナリスト連盟編 鈴木安蔵〔ほか〕著 銀杏書房 1949）（旧浦和316.1/ケン）
- 『言論の自由（叢書・現代社会のフロンティア 20）』（山田健太著 ミネルヴァ書房 2012）（070.21/ケン）
- 『表現の自由とメディア』（田島泰彦編著 J. スティール〔ほか〕著 日本評論社 2013）（070.13/ヒヨ）
- 『マス・メディアの表現の自由』（松井茂記著 日本評論社 2005）（070.13/マス）

∞ ジャーナリストたち ∞

ジャーナリズムの世界で活躍する記者、編集者、寄稿家たちのことを「ジャーナリスト」といいます。ジャーナリストたちは、近代以降の日本でも育ってゆきました。

『近代日本のジャーナリスト』（田中浩編 御茶の水書房 1987）

「戦前日本における60名近いジャーナリストの活動を中心に」構成されています。

「草創期のジャーナリスト群像」「福沢諭吉と明六社人」「民権期ジャーナリスト」「明治国家体制とジャーナリスト」「帝国主義・社会問題とジャーナリスト」「大正デモクラシーとジャーナ

リスト」「無産運動とジャーナリスト」「翼賛体制とジャーナリスト」「抵抗のジャーナリスト」という章立てとなっています。その中から2人をご紹介します。

● ^{とくとみそほう}徳富蘇峰（「明治国家体制とジャーナリスト」より） ●

名は猪一郎。1863年（文久3）熊本県に生まれた。生家は惣庄屋兼代官をつとめた豪農。健次郎徳富蘆花は次弟。熊本洋学校に学び1786年（明治9）花岡山での熊本バンド結盟に参加、京都の同志社英学校に転じ1880年（明治13）に退学。帰郷して自由民権運動に参加し大江義塾を経営する。1885年（明治19）『将来之日本』の出版で一躍文名あがり東上、翌年民友社を設立し雑誌『国民の友』を創刊、さらに1890年（明治23）には『国民新聞』を発刊して平民主義を唱道、明治中期の論壇で確固たる地歩を固める。（後略）

● ^{きよさわきよし}清沢 冽（「抵抗のジャーナリスト」より） ●

1890（明治23）年2月8日、長野県安曇郡北穂高村の豪農に生れる。小学校を卒えて、内村鑑三の弟子井口喜源治の開く「研成義塾」に論語、聖書の学習、清教徒的気風の中で「信念」に生きることの大切さを学ぶ。1906年末、ピルグリムファーザーズの精神で塾の仲間と共に渡米、18年8月帰国するまでの間、タコマ・ハイスクール、ウィットウォース・カレッジに政治・経済学を学び、現地邦字新聞『北米時事』、『羅府新報』等に記者・投稿家として活躍。（中略）1925年の処女出版『米国の研究』より約20年間に単行本22冊その他膨大な作品を残したが、外交評論を主軸に、社会、教育批評、人物論等多岐にわたる。とくに戦争下の『暗黒日記』は克明な戦時記録として、また時局批判として、主著ともすべき貴重な作品となっている。

反骨のジャーナリスト ^{みやたけがいこつ}宮武外骨（1867-1955）

讃岐（香川県）に生まれ、東京に遊学して新文学舎に入学したが、文筆家を志す。1887（明治20）「頓知協会雑誌」を発行、28号掲載の「頓知研究法発布式」の図によって3年の筆禍をこうむった。のち大阪で「滑稽新聞」を発行、華々しい活躍を示した。風俗史・政治裏面史に造詣があり、また古川柳・浮世絵の研究家としても知られた。晩年は日本新聞史の研究に没頭し、1926（大正15）東大法学部に明治新聞雑誌文庫が設立されると、主任となり、同文庫の充実に尽力した。1949（昭和24）退職。（後略）

（『コンサイス日本人名事典』（三省堂編修所編 三省堂 2009）より）

【このコーナーの展示資料】

- 『近代日本のジャーナリスト』（田中浩編 御茶の水書房 1987）（070.2/キ）
『徳富蘇峰（中公新書）』（米原謙著 中央公論新社 2003）（289.1/トリ）
『清沢冽（中公新書）』（北岡伸一著 中央公論新社 2004）（289.1/キヨ）
『暗黒日記（岩波文庫）』（清沢冽著 山本義彦編 岩波書店 1990）（B210.75/ア）
『出版その世界』（塩沢実信著 恒文社 1991）（023.1/シ）
『女のくせに 草分けの女性新聞記者たち』（江刺昭子著 インパクト出版会 1997）（070.16/ホ）
『この百年の女たち ジャーナリズム女性史（新潮選書）』（岡満男著 新潮社 1983）（旧浦和367.2/オ）
『評伝宮武外骨』（木本至著 社会思想社 1984）（289/ミ）
『宮武外骨（歴史文化ライブラリー 95）』（吉野孝雄著 吉川弘文館 2000）（289.1/ミヤ）
『予は危険人物なり』（宮武外骨〔著〕 吉野孝雄編 筑摩書房 1985）（289.1/Mi85）
『宮武外骨解剖 第1号（創始号）』（宮武外骨解剖の会編纂 崙書房 1977）（R289.1/ミ）【館内利用】

☞ ジャーナリズムのたたかい ☞

ジャーナリストたちは、論敵とたたかうのみならず、公権力や時には戦争・テロリズムともたたかってきました。自然災害がおこったときには、言葉の力で情報を伝え、人々に勇気を与えて

きました。これもまたひとつの「たたかい」であるといえます。

【このコーナーの展示資料】

- 『闘うジャーナリストたち 国境なき記者団の挑戦』(ロベール・メナール [著] 大岡優一郎 訳 岩波書店 2004) (070.16/タ)
- 『戦争とマスメディア (叢書・現代社会のフロンティア 4)』(石澤靖治著 ミネルヴァ書房 2005) (070.4/セン)
- 『「新しい戦争」とメディア 9・11以後のジャーナリズムを検証する』(内藤正典編 明石書店 2003) (070.4/アタ)
- 『新聞社襲撃 テロリズムと対峙した15年』(朝日新聞社116号事件取材班編 岩波書店 2002) (070.13/ソ)
- 『「赤報隊」の正体 朝日新聞阪神支局襲撃事件』(一橋文哉著 新潮社 2002) (070.13/セキ)
- 『テロリズムとメディアの危機 朝日新聞阪神支局襲撃事件の真実』(エスエル出版会編 エスエル出版会 1987) (070.1/テ)
- 『謀略としての朝日新聞襲撃事件』(エスエル出版会編 エスエル出版会 1988) (070.1/ホ)
- 『9月11日・メディアが試された日 (本とコンピュータ叢書)』(外岡秀俊[ほか]編著 大日本印刷 2001) (旧浦和316.4/カ)
- 『神戸新聞の100日』(神戸新聞社著 プレジデント社 1995) (070/コ)
- 『大震災・原発とメディアの役割』(新聞通信調査会 2013) (旧浦和361.453/タイ)
- 『大震災に学ぶ社会科学 第8巻 震災から見える情報メディアとネットワーク』([村松岐夫]、[恒川恵市] [監修] 東洋経済新報社 2015) (369.31/タイ)
- 『河北新報のいちばん長い日 震災下の地元紙』(河北新報社著 文藝春秋 2011) (070.21/ニホ)
- 『復興釜石新聞特別縮刷版 1・2』(盛岡タイムス社 2013 (原資料は釜石新聞社刊)) (R071.23/ツ) 【館内利用】

3 言葉でいやす

☞ カウンセリング ☞

人間の生活に、悩み・苦しみはつきものです。心が傷つき、自分の力では解決できないとき、心身に不調があらわれたとき、心をいやすのもまた言葉であることがあります。

カウンセリングとは「生活上生じてくるいろいろな悩みや、対人関係上の問題、心理・社会的問題に対して、対話を用いて問題の解決や情緒的不安の解消を手助けすること」(『福祉医療用語辞典』(第2版 宮原伸二監修 創元社 2011) より) です。

【このコーナーの展示資料】

- 『カウンセリングを考える 上・下』(河合隼雄著 創元社 1995) (146.3/カ)
- 『こころの談話室へようこそ! (Geibun library) 』(菅野泰蔵、児島達美著 芸文社 1996) (146.3/コ)
- 『「寂しさ」と「絶望」の癒し方』(福屋武人著 PHP 研究所 1996) (BM146)
- 『働く人のための「読む」カウンセリング』(高山直子著 研究社 2010) (146.8/ハタ)
- 『カウンセリングに行こう 療法・症例から受け方・選び方のポイントまで』(武藤清栄著 サンマーク出版 1997) (146.8/カ)
- 『悲しみよさようならストレスもさようなら』(大平健著 日本放送出版協会 1999) (146.8/カ)
- 『会話・言語・そして可能性』(ハーレーン・アンダーソン著 野村直樹[ほか]訳 金剛出版 2001) (146.8/カイ)

☞ カウンセラーの仕事 ☞

カウンセリングにあたる人のことを「カウンセラー」と呼びます。ここではカウンセラーの仕事について書かれた本をご紹介します。

【このコーナーの展示資料】

『カウンセラーの仕事の実際』

(佐々木正宏、大貫敬一共編 培風館 2002) (146. 8/カ)

『カウンセラーは何をするのか』

(氏原寛著 創元社 2002) (146. 89/カ)

『カウンセラーの〈こころ〉』

(佐治守夫〔著〕 みすず書房 1996) (146. 3/カ)

『カウンセリングと共感 (Sekaishiso seminar)』

(沢田瑞也著 世界思想社 1998) (146. 8/カ)

『対人援助のための相談面接技術』

(岩間伸之著 中央法規出版 2008) (146. 3/タイ)

『カウンセリングの原理』

(国分康孝著 誠信書房 1996) (146. 3/カ)

『カウンセリングの理論』

(国分康孝著 誠信書房 1980) (146. 8/カ)

『カウンセラーのための基本104冊』(氏原寛〔ほか〕編 創元社 2005) (146. 8/カ)

『カウンセラーのためのガイダンス』(滝本孝雄〔ほか〕編著 ブレーン出版 1997) (146. 89/カ)

『心理カウンセラーになるための本』(松原達哉編著 ナツメ社 2006) (146. 89/ソ)

『カウンセリング効果の研究』(ミック・クーパー著 清水幹夫、末武康弘監訳 岩崎学術出版社 2012) (146. 8/カ)

埼玉県メンタルヘルスセンター（精神保健福祉センター）

埼玉県メンタルヘルスセンター（埼玉県立精神保健福祉センター）は、県民の方々のメンタルヘルスの保持・向上、並びに精神障害者の社会復帰の支援を図る総合的な施設です。

精神保健福祉に関する相談、啓発普及事業、自立訓練施設・精神科デイケアの運営及び精神科救急情報センターの運営などを行っています。

所在地：北足立郡伊奈町小室 818-2

電話：048-723-3333 FAX：048-723-1550

(ウェブサイトより)

(<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0606/index.html>)

2015/8/10 確認

4 言葉でつながる

☞ コミュニケーション ☞

コミュニケーションとは辞典によると「言葉による意志・思想などの伝達」(『新明解国語辞典』(第7版 山田忠雄〔ほか〕編 三省堂 2012)より)のことです。

『コミュニケーション』(L. ホグベン著 三省堂編修所訳 三省堂 1974)

約2万5千年前、人類が文字を持つ前、洞窟に絵を描いて「音声の届く範囲を越え、また死後までも伝達しうる能力の獲得に向かって、無意識のうちに、最初の一步を踏み出し」たところから、文字の誕生、印刷機、幻燈・映画、電信・テレビといった伝達の手段を獲得していくありさまを豊富な図版で解説しています。

ここでは、こうしたコミュニケーションの歴史やコミュニケーション全般に関する資料、ユネスコの「コミュニケーション問題研究国際委員会(マクブライド委員会)」の報告書、1983年の「世界コミュニケーション年」の記録集を御紹介します。

【このコーナーの展示資料】

『コミュニケーションの歴史 (岩波現代叢書)』(L. ホグベン〔著〕 寿岳文章〔ほか〕訳 岩波書店 1958) (旧浦和 361. 5/ホ)

『コミュニケーション (考える百科シリーズ)』(L. ホグベン著 三省堂編修所訳 三省堂 1974) (007. 1/ホ)

『コミュニケーションの美学 (文庫クセジュ)』(ジャン・コーヌ著 小倉正史訳 白水社 2004) (旧浦和 361. 45/コミ)

『つながる／つながらないの社会学』(長田攻一、田所承己編 弘文堂 2014) (旧浦和 361. 45/ツ)

『インターパーソナル・コミュニケーション』(深田博己著 北大路書房 1998) (旧浦和 361. 454/イ)

『心とコミュニケーション (人間環境学シリーズ 2)』(竹市明弘〔ほか〕編 勁草書房 1999) (146/ココ)

『多くの声、一つの世界』(ユネスコ著 永井道雄監訳 日本放送出版協会 1980) (旧浦和 361. 5/オ)

『世界コミュニケーション年記録集』（世界コミュニケーション年推進本部 1984）（旧浦和 690/㇗）
『変わりゆくコミュニケーション 薄れゆくコミュニティ』（前納弘武[ほか]編著 ミネルヴァ書房 2012）（007.3/㇗）

☞ 様々なコミュニケーション ☞

私たちは、おしゃべりや雑談でリラックスします。うわさや誤報は、とんでもない悲劇をもたらすこともあります。新しい商品を購入するときには、口コミ情報を参考にすることもあるでしょう。また、「ケータイ」という新しいコミュニケーションの道具も普及し、コミュニケーションのあり方は変わりつつあるのかもしれない。

【このコーナーの展示資料】

『おしゃべり・雑談の政治哲学』（岩谷良恵著 大月書店 2011）（旧浦和 361.454/㇗）
『うわさと誤報の社会心理（NHK ブックス）』（広井脩著 日本放送出版協会 1988）（旧浦和 361.5/H71）
『誤解と理解 日本人とアメリカ人』（西山千著 サイマル出版会 1980）（旧浦和 361.6/㇗）
『クチコミとネットワークの社会心理』（池田謙一編 東京大学出版会 2010）（旧浦和 675.2/㇗）
『家族とコミュニケーション（家族心理学年報 11）』（日本家族心理学会編集 金子書房 1993）（旧浦和 367.3/N71）
『カンジ 言葉を持った天才ザル』（スー・サバージーランボー著 加地永都子訳 日本放送出版協会 1993）（久喜 489.9/㇗）
『新しいコミュニケーションとの出会い ジェンダーギャップの橋渡し』（ラモーナ・R. ラッシュュ、ドナ・アレン編 村松泰子編訳 垣内出版 1992）（旧浦和 361.5/㇗）
『ケータイ学入門 メディア・コミュニケーションから読み解く現代社会（有斐閣選書）』（岡田朋之、松田美佐編 有斐閣 2002）
『モバイルコミュニケーション』（山崎敬一編 大修館書店 2006）（旧浦和 694/㇗）

☞ もっとうまくつながりたい ☞

「言いたい言葉がうまく出てこない」「言葉が足りなくて誤解を与えてしまった」そんな思いをしたことはありませんか。ここでは、自分の気持ちを伝える技術に関する資料をご紹介します。

【このコーナーの展示資料】

『朝倉実践心理学講座 5 わかりやすさとコミュニケーションの心理学』（海保博之監修 朝倉書店 2010）（140.8/㇗）
『コミュニケーション100の法則』（伊藤守著 ディスカヴァー・トゥエンティワン 1994）（159/㇗）
『あなたの職場をゴキゲンにする30の習慣 You イズム・コミュニケーションのすすめ』（民谷昌弘、ユーイズム推進室著 出版文化社 2008）（旧浦和 336.49/㇗）
『アサーション・トレーニングの効果に関する実証的研究』（菅沼憲治著 風間書房 2011）（旧浦和 361.45/㇗）
『あなたの表現はなぜ伝わらないのか（中公新書）』（古郡廷治著 中央公論新社 2011）（旧浦和 361.454/㇗）
『あの人はなぜウンと言わないのか（朝日選書）』（ロバート・キーガン、リサ・ラスコウ・レイヒー著 松井光代、岡本さだこ訳 朝日新聞社 2002）（旧浦和 361.454/㇗）
『会話分析への招待（Sekaishiso seminar）』（好井裕明[ほか]編 世界思想社 1999）（旧浦和 361.454/㇗）

5 言葉をのこす

迷ったとき、つらいとき苦しいとき、悲しいとき、先人の遺した言葉は、私たちの行く先を示し、生きる勇気を与えてくれます。また、そんな先人の遺した言葉を使って大勢の人の前で話をすることもあるでしょう。ここでは、そんな名言・格言を集めた本をご紹介します。

【このコーナーの展示資料】

☞ 世界の名言 ☞

- 『世界名言集』(岩波文庫編集部編 岩波書店 2002) (159.8/㇗)
『一日一文』(木田元編 岩波書店 2004) (159.8/㇗)
『座右の銘』(「座右の銘」研究会編 里文出版 2009) (159.8/㇗)
『ことばの花束 岩波文庫の名句 365 (岩波文庫) 』(岩波文庫編集部編 岩波書店 1989) (B159.8/㇗)
『一日一言 人類の知恵 (岩波新書)』(桑原武夫編 岩波書店 1984) (159.8/㇗)
『名言の内側』(木村尚三郎 [ほか] 著 日本経済新聞社 1990) (159/Ki39)
『アフォリズムの辞典 箴言と名句で人生を読む』(宮腰太郎著 フォー・ユー 1987) (159.8/㇗)
『笑える金言つかえる名言』(野末陳平著 講談社 1988) (159.8/㇗)
『くつまずき』の事典 人生の危機から生れた名言・名句』(中村邦生編著 大修館書店 1993) (159.8/㇗)
『人生を励ます言葉 (講談社現代新書)』(中野孝次著 講談社 1988) (159.8/㇗)
『東洋の名言 (現代教養文庫)』(吉野三郎編著 社会思想社 1962) (B159.8/㇗)
『ギリシア・ローマ名言集 (岩波文庫)』(柳沼重剛編 岩波書店 2003) (B159.8/㇗)
『中国名言紀行 (文春新書) 』(堀内正範著 文藝春秋 2002) (159.89/㇗)
『中国聖賢のことば (講談社学術文庫)』(五十沢二郎著 講談社 1986) (B122/I85)
『人物中国の歴史 別巻 故事と名言でつづる中国史』(尾崎秀樹 [ほか] 編集 集英社 1982) (222ジ)
『論語名言集 (ビジネス選書 8)』(村山吉広著 永岡書店 1989) (123.8/㇗)

☞ 日本の名言 ☞

- 『戦国名将一日一言』(童門冬二著 経営書院 1993) (159/D85)
『武将名言100話』(立風書房 1983) (281/㇗)
『名言で読む幕末維新の歴史』(外川淳著 講談社 1999) (210.58/㇗)
『知っておきたい日本の名言・格言事典』(大隅和雄 [ほか] 著 吉川弘文館 2005) (159.8/㇗)

☞ 哲学者・思想家の名言 ☞

- 『この哲学者を見よ 名言でたどる西洋哲学史』
(ピエトロ・エマヌエーレ著 泉典子訳 中央公論新社 2005) (130.2/㇗)
『超訳ニーチェの言葉』(フリードリヒ・ヴィルヘルム・ニーチェ [著] 白取春彦編訳 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2010) (134.94/㇗)
『ニーチェからの贈りものストレスに悩むあなたに』
(ウルズラ・ミヒェルス=ヴェンツ編 清水本裕訳 白水社 2000) (134.94/㇗)
『ヴェイユの言葉 (大人の本棚)』(シモーヌ・ヴェイユ [著] 富原真弓編訳 みすず書房 2003) (135.5/㇗)
『芸術・思想家のラストメッセージ』(フィルムアート社、石原陽一郎編 フィルムアート社 2004) (280.4/㇗)
『魂の錬金術 エリック・ホッファー全アフォリズム集』
(エリック・ホッファー著 中本義彦訳 作品社 2003) (久喜937/㇗)
『名言で読み解く中国の思想家』(湯浅邦弘編著 ミネルヴァ書房 2012) (122/㇗)

考えは 言葉の質と量で決まる

(『超訳ニーチェの言葉』より)

ニーチェ Friedrich Wilhelm Nietzsche 1844-1900
ドイツの哲学者、批評家。非常に信仰心の厚い子供だったが、長じて才能に満ちあふれた大学生となり、卒業前にバーゼル大学の古典文献学の教授に就任(1869-79)、ショーペンハウアーの影響を受け、処女作「悲劇の誕生」(1872)を友人のワーグナーにささげた。ニーチェはワーグナーのオペラをギリシア悲劇の真の後継者とみなしていた。時代に新しい価値を与えることを決意し、ショーペンハウアーの“意志の力”をその根本原理とした。主著「ツァラトゥストラはかく語りき」(1883-85)では超人の思想を展開。彼の神秘性の強い考え方の多くはナチスに気に入られ、実存主義にも多大な影響を与えた。1889年に精神障害を起こし、二度と回復せぬままその生涯を終える。

(『岩波=ケンブリッジ世界人名辞典』(デイヴィッド・クリスタル編 岩波書店 1997)より)

執筆とは出産である。もう限界だと思える努力をせずにはいられない。だが行動も同じだ。もう限界だと思える努力をしていないのでは、と危惧する必要はない。自己に嘘をつかず、注意をこらしてさえいれば (『ヴェイユの言葉』より)

作家の名言

『近代作家名文句辞典』(村松定孝編 東京堂出版 1990)
(久喜 910. 26/キ)

『私の好きな言葉 思想家と詩人の言葉』(ヘルマン・ホイヴェルス著 土居健郎訳 エンデルレ書店 1974) (190. 4/ホ)

『トルストイ人生名言集』(トルストイ著 黒田乙吉編 金園社 1971) (159/ト)

『知と愛について ドイツ作家の言葉 (現代教養文庫)』
(関楠生訳編 社会思想社 1969) (久喜 B944/チ)

『ゲーテとの対話 名言珠玉集』(エッカーマン著 秋山英夫訳編 社会思想社) (久喜 B940. 2/エ)

『ゲーテ格言集 (新潮文庫)』(ゲーテ著 高橋健二訳 新潮社 1969) (久喜 B944/ケ)

ヴェイユ Simone Weil 1909-1943
フランスの思想家。ユダヤ系の家庭に生まれる。パリの高等師範学校を卒業し(1931)、ユダヤ人教授資格剥奪までいくつかの女子高等中学(リセ)の哲学教授を務める(1940)。就任と同時に反スターリン主義的サンディカリストの労働・政治運動に参加、多くの論文を発表。その間工員をも経験(1934-35)、「工場日記」を書いた。スペイン内乱に参加(1936)。アメリカに脱出(1942)、ついでロンドンの<自由フランス>政府にも参加(同)、解放後のフランスの未来について立案報告書「根をもつこと:L' enracinement」(1949)を書く。工員やスペイン戦争などの経験から、しだいにカトリシズムに近づき、ナチズムならびに革命の不毛性を批判し、神秘主義に到達した。肺結核に加え、飢えたフランス同胞を想い、拒食して死亡。(『岩波世界人名大辞典』(岩波書店辞典編集部編 岩波書店 2013)より)

ゲーテ Johann Wolfgang von Goethe 1749-1832

ドイツの詩人・作家。1765-68 ライプチヒに遊学。病気で帰郷。1770-71 シュトラスブルグで法律を学び、ヘルダーと交友。恋愛体験を基にした抒情詩を発表。1773 戯曲「ゲッツ」、1774「若きヴェルテルの悩み」で文壇の脚光をあげ、シュトウルム-ウント-ドラング(疾風怒濤)期の旗手となる。(中略)シラーとともにドイツ古典主義時代を築いた。
(『コンサイス外国人名事典』(第3版 三省堂編修所編 三省堂 1999)より)

だれでも話しているのだから、それでもうことばについて語る資格があるように思っている。

(『ゲーテ格言集』より)

さいごに・・・言葉がひろがる・・・

言葉は紡がれて感動や勇気をあたえ、武器になったり、癒す道具・つながる道具になったりして残されてきました。言葉は集められて、まとめられて本になります。

図書館は、本と人をつなぐ場所。言葉と人をつなぐ場所であるともいえます。

図書館を利用する方が、図書館で道しるべとなる言葉と出会えることを、私たち司書は願っています。

展示資料とリストについて

- 展示資料のリストは『書名』(著者名 出版者 出版年)(所蔵館 請求記号)の順で掲載されています。所蔵館の記載のないものは、熊谷図書館所蔵です。
- このリストに掲載されている県立図書館資料は、展示期間中貸出ができません。貸出は展示終了後から行います。予約は一部資料を除きまして可能ですので、カウンターの職員にお尋ねください。(請求記号の後に【館内利用】とついているものは予約・貸出ができません。)

